

多久 議会だより

2020
令和2年
3月定例会
第44号



特集:議会出前授業・子ども議会	P2.3
審査報告	P4.5
視察報告	P6
議案質疑	P7~9
まちで発見!	P10

特集! 議会出前授業・子ども議会



～最後の多久領主・県庁を佐賀に移した権令～ 『多久茂族』 寛文4年(1833年)～明治17年(1884年)



▲茂族公肖像画
[多久市郷土資料館蔵]

前回、東原庵舎を創設、多久聖廟を創建して文教の地の基礎を築いた「多久4代領主 多久茂文」を紹介しました。今回は、その多久家、最後の領主である「多久11代領主 多久茂族」を紹介します。

多久茂族は多久10代領主・多久茂澄の長男(幼名:松千代)として天保4年(1833)に生まれ、3歳で家督を相続、弘化4年(1847)に元服し名を茂族と改めました。

嘉永元年(1848)から、長崎警備に従事し、御小物成方頭人・長崎仕組頭人、弘道館頭人等を歴任しました。

その後も佐賀藩政の一翼を担い、多久領の兵制の近代化を図るなど、この後起こる明治維新における活躍の礎を築きました。

元治元年(1864)14代将軍徳川家茂の上洛に伴い京都に赴任、長州征討に出陣し、慶応4年5月(1868)には、多久領兵500名を率いて国許を出発し、下野国鎮撫のため宇都宮に布陣、会津若松城籠城戦ではアームストロング砲で砲撃の指揮をしました。

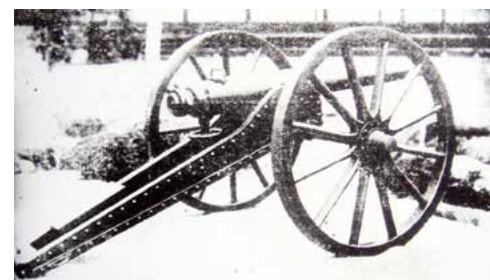
明治維新の後、明治4年(1871)に浜松県権令(現在の静岡県)に任ぜられ、明治5年に伊万里県権令(現在の伊万里市)転じられました。そこで、施政の便利さを優先し、伊万里に通勤する不便さと無駄な旅費を省くべきとして、大蔵省へ「県庁移方再伺」を提出し、認められたため伊万里県権令改め「佐賀県」が成立しました。

「県庁移方再伺」の要約

佐賀は豊後・筑前・筑後を流域に配する大河筑後川に近く、物資の輸送、旅客の利用、物価相場の情報など便利であり、佐賀の民情は「復庁」を喜び、革新の中核になる。また、佐賀へ移庁する事は施設を新設する必要もないとして、必要な絵図面添えて提出しています。

「鍋島直正公伝」 第6編 一部要約

会津の会戦に参加したおり、外廊の占領奪還を繰り返していた若松城でアームストロング砲を発射し、城内の敵を殲滅する威力を見せつけ、白虎隊を自害に追い込んだとあります。



▲アームストロング砲

明治13年権令を辞任後は、多久において、鉱業の発展に貢献し、士族の救済に尽力をしました。明治17年52歳で没する。



▲多久茂族顕彰碑[多久神社]

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境に優しい植物油
インキを使用しています。

議員 委員
香月 野北 榊島 永二 郎
正則 悟 古賀 公彦
鷺崎 瀬川 副委員長
義彦 雄二 公彦

